

the People

元気なまちには 元気な主張を続け
元気に行動する 市民がいる

the people (ザ・ピープル)
2015年 10月発行

発行：特定非営利活動法人 ザ・ピープル
代表者：吉田 恵美子
所在地：福島県いわき市小名浜字蛭川南5-6
タウンモールリスポ内
TEL：0246-52-2511 FAX：38-9538
E-mail：the-people@email.plala.or.jp
URL：http://www.iwaki-j.com/people/

オーガニックコットン 実り始めました!

「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」にとって待ちに待った収穫シーズンがやってきました。毎年同じように栽培しているつもりでも、年毎に気温や日照、雨の振り方などによって収穫量にバラつきが出てしまうということは、思い知らされているところ。さて今年は何?夏の終わりの時期の長雨が祟り、虫の害が出ている圃場も有ります。心配しながらの収穫作業です。



今年初めて「収穫祭」の横幕を広げて、ボランティアの皆さんと収穫を喜びあったのは、いわき市の北隣、双葉郡広野町の圃場でした。10月24日、広野町に出店が決まっているイオングループの全国からの社員ボランティアの方々、いわき市内の子供たちにより組織されたイオンいわき店のチアーズクラブメンバーやその保護者の方など、総勢100名近くが集まりました。子供だけでなく大人の参加者にとっても初めて目にする茶綿のぶら下がるさまに、皆さん一緒に声を上げその手触りを楽しんでいました。遠藤智広野町町長も駆けつけて下さり、収穫された17キロ近くのコットンを手に誇らしげな表情を浮かべる子供たちとともに記念の集合写真に収まりました。

11月に入ると、収穫は最盛期に入ります。各圃場では、順次収穫のボランティアの皆さんと一緒に「収穫祭」を催すことにしています。お近くで開催の折は是非覗いてみてください。

11月7日：平藤間 夏井ふぁーむ (今年の栽培にお世話になった方向けに夏井ふぁーむさん主催の収穫祭。)

- 14日：泉町滝尻 中ノ坪圃場
- 15日：小名浜上神白 みんなの畑 (囲みをご覧ください!)
- 21日：小名浜上神白 東京スター銀行協賛圃場
- 22日：広野町 浅見川圃場
- 28日：小名浜野田 パタゴニアオーナー圃場

みんなの畑収穫祭

いわき市に避難している原発避難者の皆さんともしっかり仲良くなるために、一緒にコットン畑で汗を流しながら交流しましょう!そんな趣旨で富岡町社会福祉協議会いわき支所と一緒に今年度進めてきた「みんなの畑」でのコットン栽培も収穫時期を迎えました。これまでに30名ほどの富岡町からの避難者の皆さんが借り上げ住宅、公営住宅、仮設住宅そしていわき市内に建設したご自宅と様々なお住まいから集まり、月1回の共同作業を楽しんできました。圃場の向かい側にある大熊町の仮設住宅の方の飛び入りもあり、圃場の農家さんとも仲良くなり、和気藹々の作業風景が毎月繰り広げられていました。

そして、収穫時期に合わせてこの取り組みをもっとたくさんの方に知って頂くこと、みんなの畑収穫祭を催すことになりました。当日は、コットン収穫作業だけではなく、手作りピザ窯でのピザ焼き体験、ソーラーで奏でるミニコンサート、昼食お振る舞いやビンゴゲーム大会なども催されます。

一般の方も勿論参加できます。ただし、準備の都合上、前もってご連絡をお願いします。☎/FAX 0246-92-4298 小名浜地区復興支援ボランティアセンターまで。

- 日時：平成27年11月15日(日) 10:00~15:00
- ところ：いわき市小名浜上神白館下4 おてんとさんファームカジロ



コットンプロジェクトで活躍してみませんか?

「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」の現場に足を運んで下さった方なら、きっと一度は担当スタッフ矢口拓也君と顔を合わせた経験をお持ちでしょう。

2013年からコットンプロジェクトを支え続けてくれた矢口君が、本来の人生設計に戻るため、いわきの地を離れることになりました。今年12月いっぱいでの退職となります。農業については全くの素人であったにも関わらず、農家さんたちとお付き合いの中でたくさんのことを吸収し、本プロジェクトの中核を担ってくれていた矢口君。彼の退職は、大きな痛手であることは間違いありません。しかし、彼が本来の人生設計に戻るためには、今回の退職は避けて通れないこと。ということで、新年から「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」を支えてくれるスタッフを急募します。なお、勤務地は福島県いわき市になります。

- オーガニックコットンが好きの方。 ●農業を始めてみたい方。
 - 人のつながりを生み出したい方。 ●市民活動に関心をお持ちの方。
 - 復興支援事業に関わりたい方。 ●ザ・ピープルの取り組みに興味のある方。
- ぜひ、まずはメールにてお問い合わせください。

韓国ソウル市Haja Center訪問

9月17日~20日の間、ソウル市が延世大学に委託して運営している青少年学習&職業体験施設であるHaja Centerを、県立磐城農業高校の生徒2名と共に訪問しました。このセンターは、青少年の自主的で持続的な創造性を育むための場として設けられています。その活動発表と国際交流のワークショップが集められたイベント「青少年創意サミット」に、「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」でコットン栽培やTシャツのデザイン考案、コットン栽培にまつわる絵本作りなどを行っている同校の女生徒2名が招かれ、発表を行うことになったためです。

到着後すぐに、センターの学生の案内でセンターの各部屋を見せてもらいました。以前からコットンを媒介とした交流が芽生えており、いわきから届けられたオーガニックコットンの種から育った茶綿が玄関前に育ち、いずれ実際に製品を作ろうと、カラフルなコットン糸(こちらは購入したもののようです)で手織りをしていました。他にも、自転車修理・木工・左官などの工房や、料理を学びながら実際に学生や地域住民に食を提供するキッチンもあり、様々な職業体験を通して自立に向けた気持ちを育むとのことでした。新しい教育の形が模索されている場であるということが伺えました。

創意サミット&フェスティバルでは、デンマークIPCで行われている年齢やキャリア、成績にとらわれない全人教育活動や、センターと連携して進められている済州島の平和学校などの報告が行われました。磐城農業高校の二人は、Educatin Forum of the Eraという名前のセッションの中で、自分たちの高校の震災後の状況やコットンプロジェクトでの取り組みの報告を、スライドを交えながら行いました。彼女たちの報告は実際の体験に基づいているだけに力強く、参加者に強い感銘を与えていました。



(地球環境基金助成事業)

つぶやき

先日、高齢者講習を近くの自動車教習所で受け、その後新しい免許証の交付を受けた。遂に私も名実共に高齢者になったかと複雑な心境である。▼50歳で取得した免許証だが、23年間書き換えは視力検査や簡単な書類手続で済んで来た。今回は数種類の認知機能検査や教習所内の走行も行う。緊張する私たちに「脱輪しても免許証の返納はありませぬから大丈夫ですよ」と笑顔の教官だつたらラッパ吹して講習を受けることができた▼ところで、今や65歳以上の運転者は10年前に比べて約1.6倍増加、高齢者が免許保有者の約21%を占めているという。それだけに高齢者による交通事故も増えているのは事実。私自身決して完璧な運転をしている訳ではない。日々反省する事が多い。それだけに高齢者講習を受けられたのは本当に良かったと感謝している。今まで目停止では3秒間停止はしてなかつたと思う。今は1・2・3と数えられなくなったのは不思議である▼先頃40キロ規制の道路を運転中、前の車が35キロでゆっくりと、いやに慎重に走っていた。私の後方には10台以上の車が並んでいる。補助席の友人が「さっさといちゃんだよ」とイライラし始めた。私は「まあまあ我慢しましよ」と余りイライラもせず運転していた。そのうち側道に入った車の運転者は確かに「ご老人だつた。だから」といって問題だと騒ぐべきことではない。確かに運転する以上、車の流れを読むことは大事であるけれど、それを除外する事は逆に事故に繋がってしまう。ほんのひととき見守る心の余裕が大事だと思つた▼ところで、最近女性の高齢者が様々な形で活躍し話題になっている。そんな折、知人がマツサージをしてもらつたため女性を指名したところ自分より相当年配の女性が現れた。心配になつて「お幾つですか」と聞いた。「81歳ですよ」「大丈夫なんですか」と尋ねるや、さうと体に跨がりマツサージを始め無事終了。知人曰く「まあまあでした」とのこと。健康で元気な高齢者であればどんなに歳をとろうと働く喜びを味わって生きてゆけるのだと教えられた▼驚きと言えば、最近車を運転する女性の多くなつてきていること。データ上は分からないが半数を占めているのではないかと思う程である。さあ!私もあと何年運転できるのだろうか。いよいよピープルの活動が続ける限り日々の運転は欠かせないのだ。古着リサイクル事業と復興支援事業、そしていわき市内18カ所に加え双葉郡広野町にも広がったオーガニックコットン事業、この3本の事業を同時進行で続けて行くのだから、シルバーマークを誇り高く掲げて頑張る以外ないと呟いた私である。

甘南備